

学びのスタンダード推進事業における醸芳中学校の取組  
～主体的に取り組み、学び合い高め合う授業の創造～

桑折町立醸芳中学校 教諭 星 雅人

## 1 研究（取組）の趣旨

本校は平成 29 年度から令和元年度までの 3 年間ふくしま「学びのスタンダード」推進事業のパイロット校に指定され、「授業スタンダード」及び「家庭学習スタンダード」を基盤として、教員の授業改善、指導力の向上を図り、教員の学び合いの活性化などを図る実践を積み重ねてきた。特に、授業改善については、「授業スタンダード」を問題解決型の授業づくりのモデルとして捉え、積極的に活用している。

## 2 研究（取組）の概要

### (1) 「授業スタンダード」の自校化

福島県の「授業スタンダード」をもとにして、授業の目標の明確化や生徒の主体性を引き出す教材の工夫、問題解決的な学習指導過程の工夫を重点に、現職教育と関連させながら取り組んでいる。また、秋田県の問題解決型授業の取組を参考に、全教科において「学習の見通しをもつ」「自分の考えをもつ」「ペア・グループ・学級で話し合う」「学習内容や学習方法を振り返る」の 4 つのステップを基本として授業を展開している。そして、それらの成果を生徒と教師のアンケートの結果から変容を捉え、検証を行っている。

### (2) 数学科におけるタテ持ちの指導体制の実践

本校数学科 4 名の教員が全ての学年に関わり、指導方法の共有を図りながら協同して授業づくりを行った。また、数学科部会を時間割に位置付けて情報共有を図り、指導法の改善や個に応じた具体的な働きかけの話し合いを行った。平成 29 年度は TT 指導によるタテ持ち、平成 30 年度は全学年習熟度別学習によるタテ持ち、令和元年度は全学年全学級全時間 TT 指導によるタテ持ちを実施した。

### (3) 互見授業の計画的実施

互見授業週間を設定した。教員が互いに授業を参観し、授業の 4 つのステップにおいて授業者の工夫している点を学び合うことにより、教員全員の指導力向上をねらいとした。参観後は、参観者が授業観察シートに教師の働きかけの様子や生徒の学びの姿について感想を書き、授業者に伝えた。

### (4) 家庭生活習慣改善（自己マネジメント力向上）の取組

桑折町「学びのスタンダード」推進協議委員会の協力を得て、東北大学加齢医学研究所の川島隆太先生による講演を全校生徒対象に実施した。メディア接触時間と学習効果の関係や睡眠時間と学習効果の関係について学び、生活習慣を向上させるきっかけをつくった。また、本校でも全校生徒対象に同様な実態調査を行い、具体的なデータを教師及び生徒に示すことにより、生活習慣の改善を意識させた。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

「授業スタンダード」の活用は、一斉講義型の授業スタイルから生徒が主体的に学習に取り組み、対話的に授業に関わる授業スタイルへ変える効果がある。教員同士が学び合うための互見授業は、授業づくりのヒントを得るよい機会となり、授業改善への意欲を高める効果がある。

### (2) 今後の課題

推進事業の指定ということで取組を進めることができたが、通常の学校経営のなかで、いかに「授業のスタンダード」「家庭学習スタンダード」を浸透させられるかが課題である。全教員の共通理解のもと、全校体制で取り組む計画力や取組を継続、加速させる推進力が必須と思われる。